

13	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102016	剪断力の働く気液界面を通してのスカラー輸 送機構の解明と輸送量の評価 - 流体力学で しか出来ない大気・海洋間の炭酸ガス及び熱 の交換量の正確な評価 -	小森 悟 (京都大学・大学院工 学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題通り、流体力学の立場で目的に添った成果をあげつつある。</li> <li>2. 残期間において、初期の目的に応じた成果を出すことを要望する。</li> </ol>				
14	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102017	次世代3軸精密ステージ用のサーフェスエン コーダの開発	清野 慧 (東北大学・大学院工 学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>ほぼ計画通りで概ね順調な経過をたどっている。2年間で多数の学術論文誌に発表があり、学会賞受賞などインパクトの高い成果を得ている。一つの角度格子で3軸(直交2軸、回転軸)の同時位置決めは独自性が高く、他の測定器への波及効果は大きい。</p> <p>目標設定にほぼ合致した成果を得ているが、出力信号のノイズはかなり大きく(5nm~)、何らかの解決策がないと、最終目標の分解能2nmの達成は、相当困難と思われる。走査型電子顕微鏡の計画変更は高額な装置であり、変更理由を理解するが、今後は研究費の使用変更には慎重であって欲しい。グループ全体の連携、管理は問題がなく、このまま継続し、当初の目標を達成して欲しい。</p>				